

ノーマライゼーションに新しい時代

NPO 法人・病気の子ども支援ネット「遊びのボランティア」
坂上 和子（ソーシャルワーカー・保育士・調理師）

「わたしが伝えたいこと」の授業、素晴らしかったです。
拍手がわきましたね

デンマークのバンクミケルセンによって提唱されたノーマライゼーション、
「だれもが、地域で普通に暮らす権利があり、社会は、それを実現する責任がある」。素晴らしいけれど、ではそれを具体的にどう実践するか。
これは理念であって、実現は難しいだろう、日本では、そう思われてきました。

座敷牢に閉じ込めていた障がい児の親たちが、我が子の生涯の居場所作りに、運動をして作ったものが施設でした。当時はそれ以外考えられなかった。

ところが

日本では北海道の「ベテルの家」がそれを打ちやぶり、こんどは創思苑！
日本各地に特徴ある社会運動はいろいろあると思いますが、知的障害者のノーマライゼーション、ここまできたかと新しい時代を感じました。

会場から発言した施設の男性職員が発言された内容

「自由がない、恋愛禁止、ルール違反にはペナルティーを科す等々」
こちらが、日本の現状かと。

それだけに創思苑のスタッフさんたちの仕事や熱意が随所に光って伝わりました。ヒマラヤまで行った話も感動です。いろいろ苦労はあると思いますが・・・。

私も病児を支援する活動を現場で 30 年以上やっています。。

自由がない、閉じ込められた環境は病院こそ、です。

コロナのもとで、で惨憺たるものでしたが、今回、たくさんのエネルギーをいただきました。

生の声をダイジェスト版できかせていただいて、内容の濃い授業でした。

ありがとうございました。